

講座②

支援関係をどう築くのか —求められる支援者像とは—

2026年7月5日(日)
公益財団法人鉄道弘済会
第62回社会福祉セミナー

阿比留 久美
(早稲田大学文学学術院教授)

本講座の趣旨

- テーマ：子ども・若者とのかかわる大人はかれらとどのように／
どのような関係をつくっているのだろうか
- ユースワークにおいて、子ども・若者と支援者は、支援－被支援の関係に収れんされるのではない、日常的なかかわりを紡ぎながら関係を形成している。
- 子ども・若者支援にかかわる実践者は、なにを目指し、どのようなことを意識しながら、かれらとのかかわり、「支援」をおこなっているのだろうか。
- 本講座では、実践者の語りを通じて、ユースワークにおける支援関係について考えたい。

本講座の内容

●パネリスト

- ① 傳田 清氏 (社会福祉法人長野県社会福祉協議会わかさぽBase生活相談員)
- ② 平井 登威氏 (NPO法人CoCoTELI理事長)
- ③ 松田 考氏 (一般社団法人ソーシャルペダゴジーネット代表理事)

1. 自己紹介・事業紹介・実践紹介
2. 若者との信頼関係を築き、対等な関係性を育むために意識されていること(実践されていること)
3. ご自身の立場から考える「支援」・「支援者」とは、求められる支援者とは

→ご報告後、論点整理(10分)、討論(45分)、総括(10分)

ユースワークとはなにか？

●ユースワークとは？

おもに10代の子ども・若者（以下、若者で統一）の育ちを地域コミュニティで支える活動であり、若者自身が選んで自発的に参加するという「自主性(voluntary)の原則」をもっとも大切な原則とする

※参考：平塚（2023:27-28）

●ユースワークの役割

- ① 若者たちのための場(space)を創出する
- ② 若者たちの人生に架け橋(bridge)をかける

※参考：Council of Europe（2015）（＝津富・両角（2020:89-99））

ユースワークの基礎と本質

1. 自発性の原則:

参加するかどうかからはじまり、なぜするか、なにをするかまで、若者自身が決める。

2. 若者の「いま、ここ」の現実から活動をつくっていくという原則:

若者のこれまでの人生経験と「いま、ここ」をスタートラインとして実践を紡いでいく。

3. 若者とユースワーカーのパートナーシップの原則:

「支援－被支援」の関係ではなく、対等なパートナーシップのもとに活動をすすめる。

4. 対話の原則:対話に基づき若者・ユースワーカー内・間の相互理解を進めていく。

5. 若者の文化・価値へのリスペクト(敬意)と最善の利益追求の原則

6. 若者の権利に基づいたインフォーマル教育の原則

7. ユースワーカー自身のユースワークの価値・実践へのプライドの原則

※ Youthlink Scotland (2024)、Story-telling in Youth Work(n.d.),平塚(2023:32-38)を参考に阿比留作成。

▶若者の権利に依拠したかわりという視点に立った時、

どのような支援関係や支援者像が求められるのだろうか？

文献

- Council of Europe (2015) Declaration of the 2nd European Youth Work Convention: Making a world of difference, European Youth Work Convention (＝津富宏・両角達平(2020)「第二回欧州ユースワーク大会宣言－新たな世界を創り出す－(翻訳)」『国際関係・比較文化研究』18(2), 89-99)
- 平塚真樹(2023)「ユースワークとしての若者支援－場を作ること／ストーリーを語り描くこと－」平塚真樹編・若者支援とユースワーク研究会著『ユースワークとしての若者支援－場をつくる・場を描く－』大月書店, 26-48.
- Story-telling in Youth Work(n.d.), ‘The IDYW ‘cornerstones’ of youth work’ <https://story-tellinginyouthwork.com/the-idyw-cornerstones-of-youth-work/>
- Youthlink Scotland (2024) Statement on the Nature and Purpose of Youth Work <https://www.youthlink.scot/wp-content/uploads/Statement-on-the-Nature-and-Purpose-of-Youth-Work.pdf>